



130名の大盛会だった110期の同期会

紅葉と温泉を満喫

66期一行、梅ヶ島の旅

春の6/6の会と秋の一泊旅行が、静中静高66期の恒例年中行事となつて久しいが、昨年は静岡市内とはいえず、静岡駅からバスで二時間の安倍川最上流まで遡って紅葉と温泉を楽しむべく、十一月十九日正午、静岡駅北口に集合、貸切バスで静岡の街中を抜け安倍川沿いに県道を北上、川辺純男君の名バスガイドに左右の風景を楽しむうちに有東木沢の車窓に山葵田が連なる急勾配の坂道にかかる。この沢にバスの乗り入れをはじめた頃に静岡の自動車部要職にいた永井益三郎君の苦勞話を聞く。山葵栽培発祥地の碑の前に到着、茶店で休息をとる人、上に見える白髭神社まで登る人それぞれ。

次は大谷崩れを目指す。高度を増すことに紅葉が色濃くなる。大谷崩れを展望する処



梅ヶ島の紅葉を背景にした66期の一泊旅行一行

に、幸田文さんの文学碑が建つている。我々が立つ所の標高が約千メートルとすると、前方にそそり立つ大谷嶺は約二千米弱、約千メートルの高差、そこに存在していた山が崩れ、大量の土砂・岩石が安倍川の急流域を、土砂流となって流れ下つたという。この眼前に立ちふさがる巨大な壁に大自然の物凄い力を見せられ、ただ立ち盡すのみ。

そこで初日の見学を終え、一夜の宿、ペンション「くさぎ里」へ三時半頃に到着。

五時半から宴会、川辺君の司会、六月以降の物語者、岩崎一雄君の冥福を祈り黙禱を捧げ、恒例の初参加者である野哲郎君の自己紹介と乾杯の音頭で始まり、山の幸に舌鼓をつち、アルコールも廻りはじめ、まだ、たしかになつた

客演は市川和彦氏
吹奏楽は4月1日
平成一八年四月一日(土)本校吹奏楽部による演奏会が静岡市民文化会館大ホールにて開催されます。開場は午後五時、開演は午後六時、主な演奏曲目は、「ローマの松」全曲(レスピーギ作曲)、トラベラント奏者協奏曲(アルチーナ作曲)、客演は新日本フィルハーモニー交響楽団トランペット奏者の市川和彦氏です。今年も伝統に則り古典や現代作曲家の大作に挑戦しました。技術的にはまだまだ未熟な点もありますが、部員達の音楽にける情熱を感じ取っていただければ幸いです。

「東海」の目標達成
3月25日マンドリン
マンドリン部は、昨年一二月の静岡県高等学校文化連盟楽器・管弦楽専門部主催第九回演奏会に優勝賞を受賞し、二月一日(土)に岐阜県で開催される東海選抜ギター・マンドリンフェスティバルへの

3月25日に69期会
(74期 磯村幹夫)
一五周年も盛大に終了し、そして69期の我々も卒業五〇周年では多数の同僚と久しぶりに再会出来、本当に楽しく語り過ぎました。年令も七〇才も越えましたので、又再会を計画致しましたのでお知らせ致します。振って御参加下さい。

期日 平成一八年三月二十五日(土)
会場 ホテルアンシア 静岡ターミナル 四F 平成の間
時間 一八時三〇分～
会費 七〇〇〇円
(68期 田宮 松永)

可能性への挑戦!

静高野球部後援会

年会費1口5千円から正会員は2口1万円以上をお願いします。
会員になって一緒に甲子園優勝をめざそう。

会長/川村修 副会長/杉本憲一、望月威男 幹事長/望月浩
静高野球部後援会ホームページ http://www.yakyubu-koenkai.jp
事務局/〒422-8615 静岡市駿河区国吉田2-5-10 シャンソン化粧品内 担当/常木明 TEL054-261-8181 FAX054-261-8877

「同級生は宝物」
110期 6年ごと同期会開催へ

十一月二十六日(土)ホテル二年(六年会からちょうど六年)として三〇歳という節目の歳ということもあり、同期会開催の運びとなりました。当初心配された出席者は、恩師を含めて総勢約一三〇名程となり、大変盛会のうちに終わる事ができました。

同期会開催にご協力頂きました、同窓会事務局・諸先輩方、そして幹事、及び当日ボランティアの同級生には大変感謝しております。本当にありがとうございました。

学生の頃、三〇という年になるのは、はるか先の事のように感じていました。実際、卒業してから一〇年以上も経過し、皆大いに変わっているのではないかと思っていました。が、同級生と話をしていくと、学生時代に戻つたかのよう

関西の74期が同期会
「楽しい集い、続けます」

わが母校の同窓会関西支部の幹事に74期から大久保好子さん(旧姓宮崎)と磯村が参加しています。幹事会等で顔を合わせる中で、昨年にありますか、支部総会に74期の出席が少ないから同期の勧誘をしよう、ついでに、同期の連絡網を作ろうということ

演奏会
ぜひお越し下さい。
(弦楽合奏部 部長 関合洋子) 二年 関合洋子

高丘親王航海記 (坂野嘉彦) 他
入場料 三〇〇円(予定)

なお、OB参加ステージはポップスを中心とした構成とします。土曜日の時間帯ですので、多くの方の演奏への参加をお待ちしております。詳細につきましては顧問までお問い合わせ下さい。

(マンドリン部顧問 97期 相曾幸江)

の相談を経て九月一日に同期会開催の運びとなりました。当日は大阪市内某所の居酒屋に六人が参集しました。大久保さん、河村信弘さん、玉井起雄さん、村松誠一郎さん、八木義博さん、磯村の六人です。卒業以来四十七年ぶりに会つたという人もあり、先生のこと、友達のことなど高校のことはもとより、中学、小学校のこと、静岡のことなどなど思い出話に熱が入り、それからお互いの近況に話弾んで大変楽しいひと時でした。われわれも昔話をするのが似合う年回りになったのだなあと感ずつたことでした。

この集まりを続けようと思ひ一致し、大久保さんに会長をやつてもらふことになり、事務担当は磯村が引き受けることになりました。

三時間があっという間に過ぎ去りました。もつと話していたかったのですが、またの再会を約して解散しました。

この集まりは静岡の74期同期会と全く連絡無く活動してきましたが、74期同期会の関西支部として位置付けしてもらえればと思います。

魚の里で昼食、次いで赤水の滝を観る。丁度見頃の紅葉の間を二段の滝が流れ落ちる景は見事、素晴らしい。

そこから一路、長谷通りというところを私の我儘で、北部図書館の前に移建された山上億良の子宝万葉歌碑の前まで廻り道して母校へ。静岡ドームでは野球部の練習中、しばらく眺めて二時半に静岡駅着、来年の再会を約して解散した。この旅行への参加者

二二名 (66期 金子隆美)

講師の小楠元廣先生に講評をいただきました。この演奏会では順位はつかないのですが、講評には私たちの演奏の今後の課題や伸ばすべき長所などが指摘されました。三月の定期演奏会に向けて、より良い演奏を追求していきたいと思ひます。弦楽合奏部定期演奏会は、二〇〇六年三月二三日に、静岡音楽館Aオーで行います。お誘い合わせの上



関西74期会を開いた6人

の相談を経て九月一日に同期会開催の運びとなりました。当日は大阪市内某所の居酒屋に六人が参集しました。大久保さん、河村信弘さん、玉井起雄さん、村松誠一郎さん、八木義博さん、磯村の六人です。卒業以来四十七年ぶりに会つたという人もあり、先生のこと、友達のことなど高校のことはもとより、中学、小学校のこと、静岡のことなどなど思い出話に熱が入り、それからお互いの近況に話弾んで大変楽しいひと時でした。われわれも昔話をするのが似合う年回りになったのだなあと感ずつたことでした。

この集まりを続けようと思ひ一致し、大久保さんに会長をやつてもらふことになり、事務担当は磯村が引き受けることになりました。

三時間があっという間に過ぎ去りました。もつと話していたかったのですが、またの再会を約して解散しました。

この集まりは静岡の74期同期会と全く連絡無く活動してきましたが、74期同期会の関西支部として位置付けしてもらえればと思います。

昨年九月一七日(土)一八時より、ご来賓として母校から小田卓也教頭、岩倉睦弘事務長、長嶋孝之総務課長、同窓会から櫻井一男会長の出席をいただき、静岡市葵区紺屋町のクーパーホール会館で定時制支部総会を開催しました。

若い人、集まろう

定時制支部総会、今年は9月30日 2次会は同期会で盛り上げ

今回の出席者は九〇名を数え、市外県外からの出席者も多く大盛況となりました。しかし、残念ながら119期以降の出席者が皆無で、将来の活動維持を思いつ時、大きな不安要因となっています。

総会は鈴木重利幹事長(75)

期)が司会進行役となり、浅井輝夫支部長(72期)の挨拶に続き一六年度会計報告が全会一致で承認されました。

「来賓の方々からは、祝辞に続き母校の近況報告や問題点、同窓会の更なる活性化を願う趣旨への呼びかけなどがありました。

我が支部も、総会出席者を増やすべく『二次会を同期会に』を合言葉に次回総会は開会時刻を一時早めて平成一八年九月三〇日(土)一七時からクーパーホール会館にて開催することを決議し、今次総会は三〇分ほどで終了、直に懇親会に入りました。

同期や先輩後輩問わずの輪の中で、久しぶりの、あるいは卒業以来三九年ぶりの再会など感激の一幕もあり、空白期間を埋めつくさんがごく近況報告や思い出話に花も満開、和気藹々のひとときをすごしました。



会場の数崎君(左)、右は中尾氏

鬼気迫る厳しい作品

61期数崎君「思想」「人生」を表現

銀座で個展

61期生・66期生 数崎昭君が昨年一〇月一四日から三〇日まで東京銀座画廊で個人展を開催した。

数崎君は、一九五四年東京芸術大学芸術学部日本画科を卒業した。卒業制作「女(二〇〇号)」は、学校賞上げとなり、現在同大学に保管されており、更に一昨年芸大によって作られた「百年史」にこの作品が掲載された。

出品された約三〇点の作品はカラー・コンテで画かれ、特に「赤色」と「青色」の透明感と深いニュアンスは、五

〇余年に亘る同君の研究の成果を感じさせた。

出点の一つ、枯木母子(P.50)は、ベトナム戦争の枯葉作戦をテーマとしている。

この画は、此の世の出来事と思えぬ死の林を背景とし、画面中央で正面を向いて椅子に座っているベトナム人の母親を聖母マリアに擬し、この母親に抱かれている二人の子供をイエスキリストに擬している。

カラー・コンテによる枯木あざい色の青色と、ズボンに赤色に、そして二人の子供に生きる力を感じることが出来る。平和の尊厳を感じた数崎君が戦後六〇年の間「いまだかつて良い戦争も悪い平和もない」(ハンジャミン フラシクリン)の言葉の真意を常に

に自己に問い続けた思想がこの作品に結集されたものと思われる。

この長い歳月の間真摯な努力の継続が、見る人の心を打った。数崎君は61期生の記念文集に於いて同期生のS君の戦死の意味を考えていた。彼の戦死は、神の嘉納し給う所業であったかを問い続け、考え続けている数崎君の生き方は唯頭が下がる思いである。

従って、数崎君の全作品には、所謂「売絵」を思わせる要素は微塵もない。彼の個人展は、彼の思想や人生そのものの表現であるという点で、特筆に値する。

「大道芸人 ギリヤークニケ崎」の連作は、槍舞台等でない、天下の大道で独り踊り、その評価である投げ銭を生活の糧とする点が芸、演芸の原点とするニケ崎氏がモデルだ。

この連作は、数崎君がこのモデルを通して「此の世の中で本当の生き方は何か。」を

表現したものである(数崎君は、学生時代から「無所属」こそが正しい芸術家の姿であると考え、その信念を貫き通して今日に至っている。彼の生き方に共感するものがあつたのである。)

(61期 中尾 昭)



愛好家や同級生で賑わった杉山友画伯の個展

杉山画伯(68期)病床に

島田の自宅で個展開催 同窓生も多数が訪れる

68期の平成一八年同期会は四月中旬の平日を選んで静岡市で開催することになりました。

昨年末の幹事会で決まったものです。今回は会員からの要望もあって、ほとんどが現役を引退しているため平日が時間を取りやすいようです。また、ゴルフ愛好家からの声で、同窓会の前日(東京 静岡間のゴルフ場)コンペを開催する予定です。同期会は小林孝史君が当番

6510 (68期 石垣 市)

幹事に選ばれ、ゴルフは松崎至宏君が責任者に決まりました。同期会は毎年一回開催することになり、今回は二回目です。一人でも多くの同志の皆さんの参加が期待されます。尚同期会当日同期のバスケットボール部員が懇談会を予定しています。

創立二五周年で建設された母校印高館に展示されている日本画「玲瓏」の作者で、同期の杉山友君が「昨年末病いで倒れ、現在入院治療中です。今のところ絵筆を取るのも難しいようです。島田市内のお宅は宣子夫人と長男の平さんが守っておられます。昨年一月は自宅画廊で個展を開き、愛好家や同窓生約二百人が訪れました。東洋的な神秘性を漂わすその独特の画風には根強い人気があります。今後も秘蔵の作品を随時公開するのでご来訪を願っています。杉山宅電話 0547 35

届かなかった叫び

テレビ局創った水島聡氏(84期)



水島氏

ほとんど聞き取れなかった。昭和四五年一月二五日、作家三島由紀夫氏は、市ヶ谷防衛庁で自刃した。その日は陰暦で吉田松陰が獄死した日でもあった。生命尊重のみで、魂は死んでもよいのか?彼の叫びはそう主張していた。テレビの映像だったが、私は今でも鮮明にその姿を思い出す。何より感じたのだと思った。あの時、私は

三島由紀夫の「檄文」が原点

その人はバルコニーから叫び続けていた。拳を振り、力強く訴えていた。しかし、その叫びは上空を巡回するヘリコプターの音でかき消され、

つた三島氏の声だった。そして、ひとり叫び続ける。痛ましくて、約三百本近いテレビや映画の作品を作ってきた。人の心に届けたいという思いから開局し、放送を開始した。『日本文化チャンネル桜』は、平成一六年、戦後日本に

盟に所属し、監督と脚本家として、見捨てられ、忘れ去られ、届かなかった声を日本から開局し、放送を開始した。『日本文化チャンネル桜』は、平成一六年、戦後日本に



旭日小綬章受章の大石繁氏

大石繁氏は静岡から一橋大学ルキ業界に対する貢献が評価され大石繁氏が旭日小綬章を受章、一月九日宮中に於いて天皇陛下に拝謁する栄に浴しました。

大石 繁氏(67期)に旭日小綬章

平成一七年秋の叙勲で工部省に於いて天皇陛下に拝謁する栄に浴しました。

平成元年代表取締役社長に就任。関係会社の取締役の他、日本ガス協会理事、静岡県ガス協会会長などを兼務し平成一三年会長就任とガス一筋の人生を歩んで来られました。特に社長就任時はバブル最盛期に当たりましたが本業以外は目もくれない堅実経営を貫き、一方同社の規模としては負担が大き過ぎるとみられた自然にやさしいエル・エヌ・ジー(液化天然ガス)基地建設に踏み切り天然ガスの導入に社運をかけて挑戦し同社の基礎を固めました。また同氏の著書「会社を変えよう」(静岡中静高同窓会報平成一四年五月発行一七号)著書紹介に掲載)にも見られる如く情熱を持ち、率先して企業経営にあたり優良会社に育て上げました。

変わりはじめたのだと思う。私は現在、衛星放送スカイパーフェクトVで、二つのチャンネル(日本文化チャンネル桜七六七C・ウィンズフイリビノチャンネル787C)を経営し、放送事業を行っている。元々、静岡高校を卒業して上京し、早大卒業後、通称「チャンネル桜」は、映画監督協会と脚本家連

大石氏は静岡から一橋大学ルキ業界に対する貢献が評価され大石繁氏が旭日小綬章を受章、一月九日宮中に於いて天皇陛下に拝謁する栄に浴しました。

たのは、あの三島氏の「届かなかった声」だった。それが三〇余年、いのちを賭して叫ばれ「届かなかった声」、あの三島由紀夫の声を届けた。これが衛星放送「日本文化チャンネル桜」創設の原点となっている。元々、静岡高校を卒業して上京し、早大卒業後、通称「チャンネル桜」は、平成一六年、戦後日本に

戦後六〇年が過ぎ、日本は大転換期を迎えている。ある意味で非常に危険な時代に入つたのだとも言える。そういう時代にあつて、私たちが生み出した、世界最古の国産作品に、映画「南の島に雪が降る」、テレビ「車椅子の花嫁」(プラハ国際テレビ大賞視聴者大賞)など。

この度の受章は同社にとって元会長上野次郎吉氏以来の快挙であります。その他平成

お詫び
同窓会報26号、静岡新任教員紹介コーナーに記載漏れがありました。お詫びして訂正いたします。

(67期 鈴木成美)